

配流から800年 順徳上皇を偲び

10月3日(日)、真野ふるさと会館で、「順徳上皇佐渡ご遷幸800年記念事業」として式典が開かれ、100名余りの関係者が参加しました。

1221(承久3)年、父の後鳥羽上皇と共に「承久の変」で敗れた順徳上皇は、佐渡へ配流されました。配流から800年の節目となるため、真野地区の関係者などで構成する実行委員会が準備を進めて式典が開かれたものです。式典では、最初に順徳上皇の生涯と佐渡のゆかりの地について紹介するビデオが上映されました。

主催者、来賓のあいさつ後、度津神社雅楽会が「越天楽」と「五常楽」の雅楽の演奏を披露し会場は厳かな雰囲気になりました。

基調講演では、式典の実行委員長であり郷土史家の山本修巳さんが「佐渡の順徳上皇」と題して、配流されてからの順徳上皇の暮らしや業績などについて紐解きました。

続いて、記念講演として、新潟大学人文学部の中本真人准教授が、「順徳上皇『禁秘抄』」と題して講演しました。中本准教授は、貴重な資料をスライドで紹介しながら順徳上皇と「禁秘抄」の関連性などについて語りました。

この他、式典では、島内外から募った短歌作品の表彰や、順徳上皇の上陸の地とされる恋ヶ浦に建てられている石碑に刻まれた伝説の1つである「稗の粥」を再現し、参加者に振舞われました。



▲度津神社雅楽会の演奏



▲山本実行委員長の基調講演



▲中本准教授の記念講演



▲優秀作品の表彰



▲豊原久夫顧問による伝説の解説

▲ヒエの粥を食し、伝説に触れる

～ 児童たちが、授業でわら細工 ～

10月7日(木)、河原田小学校の4年生27名がわら細工に挑戦しました。

総合的な学習の時間で、1学期は佐渡の芸能・鬼太鼓について学んだ児童たち、2学期は工芸について学びました。

事前授業で佐渡の伝統的な工芸について興味を持った児童たちは、この日、実際にわら細工のリース作りを行いました。財団職員から、縄ないから教えてもらいコツを覚えると楽しそうに取り組んでいました。

きれいにできあがった和風リースは、クラスに戻って飾り、教室内はひと足早いクリスマス気分になりました。



～ 高千中生徒、文弥人形を披露 ～

10月16日(土)、高千中学校の全校生徒が取り組む文弥人形が文化祭で披露されました。日頃、稽古を重ね地域で発表をしていますが今年はコロナ禍のため発表の機会が減りました。

当日は、保護者や地元の人たちの他に、神奈川県の間模女子大学や当財団とオンラインでつなぎ、大勢の方が生徒の皆さんの熱演を鑑賞しました。



▲オンラインでも上演した高千中の文弥人形

～ 佐渡人形芝居の熱演が、ケーブルテレビで放送されます。～

7月18日に開催した「佐渡人形芝居上演会」の様子の最終回が、CNSテレビ（コミュニティネットワーク佐渡）デジタル112chで放送されます。放送開始時刻は、いずれも9時～・13時～・17時～・21時～となっています。ぜひ、ご覧ください。

■佐渡人形芝居上演会(3)

○演題：山椒大夫—母子対面の場合—

○放送日：11月1日（月曜日）・5日（金曜日）・9日（火曜日）・13日（土曜日）・17日（水曜日）・21日（日曜日）・25日（木曜日）・29日（月曜日）

※災害情報や議会中継、その他都合により番組内容が変更される場合があります。予めご承知おきください。

速報「第5回 佐渡民謡の祝祭」の開催日決定！

今回で5回目となる「佐渡民謡の祝祭」は、アミューズメント佐渡で8月に開催する予定でしたが、新型コロナウイルス感染拡大したため延期しておりました。

この度、実行委員会が開かれ、令和4年2月6日（日）に開催することが決まりました。時間など詳細については、引き続き、お知らせしていきますのでよろしく願いいたします。



佐渡の芸能を後世へ ～ご寄付・ご支援のお願い～

島に響く太鼓の音、島民の笑顔、子どもたちの輝く目、佐渡の日常には文化・芸能が密接に関わっています。

この日常が次世代へ続くように、当財団では佐渡文化の継承・保存活動に取り組んでおります。

ご賛同いただける方のご支援をお願いしております。詳しくは下記QRコードからホームページをご覧ください。



○和楽器を貸し出しています。和の音に触れてみませんか。

○民謡など語り、指導にあたる講師を派遣しています。

○民謡や鬼太鼓などで培われた民芸品などのアイテムを通信販売しています。

